

御（お）と御（ご）の統語的特徴

— 「お電話」「お時給」はなぜ「お」か—

堀尾 佳以*

Abstract

This study is an attempt to solve the problem of the distinction in use between the honorific prefixes **O-** and **GO-** which have not been studied very much before. It is normally said that the prefix **GO-** must be used with a kanji word immediately before it, but actually there are some kanji words with the prefix **O-**, which have been thought of as exceptions. In this study we will prove that the semantics of all the exceptional kanji words with the prefix **O-** is considered as a tool or an instrument.

「お」＋漢語、「お」＋道具、お電話、お時給、「お」も「ご」も使える語彙

1. はじめに

日本語教育の現場で初級学習者に「敬語」の項目として、「お」と「ご」を導入した時、和語には「お」漢語には「ご」を付けるというルールを説明すると、「『ご住所』は分かるがなぜ『お電話』なのか？」という疑問を投げかけられた。どちらも漢語に「御」を付けているのであるが、この疑問に対する答えがはっきりと記された先行研究はほとんど無かった。また、従来のルールであれば「お会計」となるはずだが、「ご会計」の使用例も確認された。

そこで、本研究では「お」と「ご」について、これまであまり言及されて来なかった、時に例外とされるものを中心に分析を行うこととする。そして、「『お電話』はなぜ『お』なのか」という疑問に対する答えを出す。また、「お時給」等の新しい語彙の使用が見られるが、「ご」をつけるはずの漢語の語彙にどうして「お」が付くのかについても明らかにしたい。

1.1. 目的

本研究で取り上げるのは、「御（お）と御（ご）」を付ける語彙のうち、基本ルールから逸脱していると考えられるものの中でも、名詞語彙についてである。

本研究では、主に次の2点について明らかにすることを目的とする。

まず、「和語には『お』、漢語には『ご』を付ける」という基本のルールに当

* 北見工業大学特任講師 Lecturer, Kitami Institute of Technology

てはまらない「御（お）」と「御（ご）」を付ける名詞語彙について分析し、「ルールから逸脱している」とされるものについて解明したい。もう一つは、「御（お）」も「御（ご）」も使用できる語彙について、現在の使用状況を確認することである。以上の2点について分析を行い、明らかにしたい。

1.2. 方法

先行研究をまとめ、各種辞典や国立国語研究所の語種辞書「かたりぐさ」¹、インターネット上で公開されている新聞記事などを中心に「御（お）と御（ご）」の付く名詞語彙を収集し、分析を行う。

1.3. 先行研究・資料

先行研究・資料は、敬語・敬意表現に関するものの中から、該当箇所を抜き出す。言語学の専門的立場から書かれたものだけでなく、一般書籍も含め、総合的に見ていく。また、言語学的分析を行うため、漢字・語源などの辞典・辞書も使用する。本研究では、「御（お）と御（ご）」の新しい用法・語彙に関して、より正確な資料を収集するという立場から、対象語彙を含むコンテキストなども、実際に使用されているものを収集する。

2. これまでの「御（お）」と「御（ご）」

従来の研究で「御（お）」と「御（ご）」は、どのようにまとめられているのだろうか。先行研究・参考文献をみると、『御』の働きについてまとめたものが多く、文法の立場からの分析はあるが、形態的・統語的特徴について言及しているものは少ない。先行研究・参考文献に挙げられている形態的・統語的特徴、その他のルールについてまとめる。

¹ 語種辞書『かたりぐさ』ver.1.0.1 (2005-09-06)独立行政法人国立国語研究所 品詞分類及び和語・漢語・混交語・外来語が分類されており、本研究ではこれを元に分類を行った。

2.1. 「御（お）」と「御（ご）」先行研究

表1 先行研究の「御（お）」と「御（ご）」

機能	説明	例
「お」がつく	和語	お金、おつり
「ご」がつく	漢語	ご理解、ご了承
美化語	語彙を美化する	
動詞	和語動詞→転生名詞を作る	
外来語		おたばこ ² 、おソース
人に関する言葉	固有名詞＝「お」のみ	「お滝」
慣用が固定、語彙化	あいさつ	御苦労さま、お早う
食べ物		お米、お肉、お酒
尊敬・尊重	相手の事物・動作に対する尊敬 神仏に対する尊敬・尊重 自分の動作で相手に関係ある 慣用	ご意見、お召し物 お宮、お寺 お願い、お手紙、ご報告
メディアの影響		お利息、お求めやすい
あまりつかない	マイナスイメージのもの	お高い ³ 、お安い

これまでの「お」「ご」に関する研究は、以上のようにまとめられる⁴。「お⁵」と「ご⁶」について、どのような使い分けがなされているのか、お＝和語、ご＝漢語につけるというルールはあるが、はっきりと明言した先行研究はなく、基本的なルールから逸脱したものについては言及されていないものが殆どである。

2.2. 先行研究の問題点

先行研究をまとめた結果、以下のような問題点が挙げられる。

問題①ルールからの逸脱は「例外」である

「和語には『お』漢語には『ご』を付ける」基本のルールから逸脱するものについて「例外」という以外には言及しておらず、分析されていない。これまで「例外」とされてきたものは本当に「例外」なのだろうか。

問題②形容詞・形容動詞に付かない

² 語種辞書「かたりぐさ」では「たばこ」は外来語と分類されているため、本研究では外来語として扱う。

³ 実際には、「お高くとまっている」など使われており、マイナスのイメージを伴う場合もある。

⁴ この他にも、保母・幼稚園ことばとして「おねんね」「お欠席」などがある。

⁵ 「なさる」「になる」などの語を伴い、その動作の主に対する敬意を表す。「する」などを伴い、自分の側の動作について、動作の及ぶ相手に対する敬意を表す。（大辞林第二版）

⁶ 主として漢語の名詞などに付いて、尊敬の意を表す。人の行為に対する尊敬の意を表す。行為の及ぶ他人を敬って、自分の行為をへりくだっている。（大辞林第二版）

「ご＝形容詞・形容動詞には付かない」とあるが、実際には「ご親切」「ご丁寧」⁸という語彙があることから、適切な分析であるとは言えない。また、他の品詞については説明が無い。

問題③和語・漢語と「お」「ご」の関わり

「和語」・「漢語」と「お」「ご」の関係について述べられているものは殆ど無い。

本研究では、ここに挙げた問題点を中心に分析し、解決する。

2.3. 『お』と『ご』統語的分析に関する先行研究

先行研究で、「お」＋漢語、「ご」＋和語について、つまり統語的研究と関係がある部分を以下にまとめる。

「心配」「安心」「苦勞」「満足」などの漢字の音読みで言うことば（漢語）には「ご」が付く。ただし、「弁当」や「道具」には「お」が付くし、「もっとも」「ゆっくり」など「ご」が付くなど、例外も多い。⁹

古くから存在し、すっかり日本語になじんだ漢語には、「ご」ではなく「お」を使ったりする。「お料理」「お電話」などである。「お」が漢語に用いられる例もないわけではない。◎お肉、お茶、お盆、お客、お菓子

これまでの先行研究では、基本的なルールから逸脱しているものに関しては「例外」としている。また、「すっかり日本語になじんだ」漢語であれば「お」を付けることが出来る、と考えている。しかし、どちらも語彙を収集し、分析したわけではない。問題点としては、

- ①「お」をつける漢語語彙を収集していない。
- ②言語学的分析ではなく、筆者の直感によるものである。
- ③「例外」「日本語になじんだ」といった曖昧な分類である。

以上三点が問題点として挙げられるだろう。

3. 御（お）と御（ご）の分析

御（お）と御（ご）の、先行研究では言及されて来なかった「和語には『お』漢語には『ご』を付ける」という基本のルールを逸脱している語彙を中心に、言語学的分析を行う。

ここで「御（お）と御（ご）」の区別に関わる「和語」「漢語」の判断については、語種辞書『かたりぐさ』を使用し判断することとする。

⁷ 先行研究では唯一、山田(1924)に「副詞の上に冠するもの。これも主に漢語のものにつく。ご親切・ご丈夫・ご盛ん・ごゆっくり・ご尤も」と記されているだけである。「敬語法の研究」山田孝雄.1924

⁸ 「親切」は名詞・形容動詞の語幹、「丁寧」は名詞一般と名詞・形容動詞の語幹の働きを持つ。これらの語彙は、完全なナ形容詞(静かな)とは異なっている。「親切」「丁寧」以外の語彙の有無や規則があるのかどうかは他の研究に譲る。

⁹ 関根健一.1997.『笑う敬語術 オトナ社会のことばのしくみ』P.61

3.1. 「お」＋漢語と「ご」＋和語

日本語教育では初級の段階で「お」「ご」のおおまかなルールとして「和語には『お』、漢語には『ご』」と教える。その際学習者から「ご住所は分かるが、なぜお電話なのか？」といった質問が出た。ここでは、「なぜ『お電話』なのか？」という疑問に対して言語学的に説明できるようにしたい。

3.2. 語彙の収集と分析について

本研究を進めるきっかけとなったのは、日本語学習者の「お電話」に対する疑問と、「お時給¹⁰」という語彙の使用である。「お」「ご」の既存のルールから逸脱しているものを集めていく過程で、「モノに『お』が付くのではないか？」と考えた。そこで、分析に入る前に仮説を立てる。

仮説：漢語であっても、モノであれば「お」が付く ④お電話

基本的な漢語の語彙には「ご」が付く¹¹ののだが、ここではこの仮説を証明するために、「お」の付く道具を表す語彙を対象とする。本研究は「モノに『お』を付ける」という事を証明するために現在使用されている語彙の中から「お」の付くモノを収集し、分析することとする。

まず「モノを表す語彙」について定義を行い、それに当てはまるものを分析対象語彙とし、収集する。その際、語種辞書『かたりぐさ』で「和語」と「漢語」の判断を行う。本研究では、主に以下の2点について、分析を行う。

- ・モノを表す語彙の中で、どのようなものに「お」が付けられているのか。
- ・接頭辞「お」を除いた元の語彙が和語であるか、漢語であるのか。

3.3. モノを表す語彙の分析

ここではモノの定義を行い、収集・分析対象となる語彙の基準を定める。

「もの」：形のある物体を初めとして、広く人間が知覚し思考し得る対象の一切を意味する。「こと（事）」が時間的に生起・消滅する現象を表すのに対して、「もの」はその現象を担う不変な実体を想定して用いる語

次に、『お』の付く、「モノの語彙」を次のように定義する。

「お」の付く、「モノ」の語彙

- ①接頭辞「お」を除いた語でもモノを表す語彙として成立しているもの。
- ②実際に存在している物体に付けられたもの。ただし抽象的なものは除く。

¹⁰ 「お時給」については、メディアでの使用が確認されているが、実態調査はされていない。今後、この使用が定着するか否かを見極める必要がある語彙であるが、使用例のある語であることを記しておく。

¹¹ ご連絡・ご住所など、従来のルールによるもの。

③同じカテゴリーでも語彙が異なる場合、それぞれを異なり語彙として数える。

④例 お給料／お給金

④動詞を名詞化していても、実際に使用されている名詞がモノとして存在し、道具として使用されている場合は数える。

④例 お手ふき／お絞り

⑤新しい語彙で辞書には収録されていないものも、実際に使用されている場合は取り上げる。

④例 お時給

⑥現在あまり使用されていないものでも、これまで使用され、少数の人が使用しているものは、死語ではないため数に入れる。

④例 お匙

この定義に当てはまる「お」の付く『モノ』を表す語彙113語を収集した。ここで収集した「お」のつくモノについて見てみよう。これらの語彙をモノの種類によって分類する。

表2 モノに「お」を付ける語彙

カテゴリー	モノを表す語彙の特徴	例
金銭	お金に関する語彙	お賽銭・おこづかい・お通帳
装飾	服装や体につけるもの、ファッション	お鏡・お靴・お扇子
家	家や家の間取りなどに関する語彙	お宅・お座敷・お二階
食器	食べ物を作る・食べる際に使う道具	お杓文字・お皿・お玉
祭礼	儀式や慣例、行事などに関するもの	お数珠・お中元・お土産
通信	通信に使用する道具	お電話・お手紙・お葉書
その他	上記の8つのカテゴリー以外のモノ	おタオル・お注射

3.4. 「お」の付くモノ 統語的特徴

次に、「お」の付くモノの統語的特徴について見ていこう。ここに示すグラフは、本研究で収集した113の語彙がそれぞれ【和語・漢語・混交語・外来語】のうちどれであるかを分類したものである。

「お」の付くモノ113語のうち、基本的なルールに則った和語は47%、ルールから逸脱しているとされてきた漢語は38%であった。

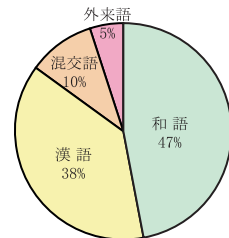


図1 統語分類

漢語に「御（お）」を付けるのが、1%や2%であれば「例外」とは言えるかもしれないが、この38%（44語¹²）という数字から見ても、従来の説である「漢語に接頭辞『お』を付けるのは、例外である」とは言えない。また、外来語についてみてみよう。

④ おパンツ¹³・おズボン・おトイレ・おタオル・おたばこ・おビール

これらの語彙も同じように、「モノ」という点から「御（お）」を付けることができる、と考え、使用されていることが窺える。

以上のことから、「御（お）」の付く漢語は例外なのではなく、「モノ」であるから「御（お）」が選択されているということが言えよう。つまり「お電話」は「電話」という語彙が漢語であるにもかかわらず、「モノ」であるため「御（お）」をとる、と言える。

3.4.1. 「ご」+和語

和語に「ご」が付くことはあまりないが、副詞には「ご」を付けることがある。副詞：ご+副詞 ④ ごゆっくり、ごもっとも

漢語以外に「ご」が付いた例は先行研究ではほとんど言及されず、例外扱いされているものが多い。山田(1924)では「ごゆっくり」「ごもっとも」について記されている。以下、先行研究に挙げてあるそれぞれの立場を示す。

山田(1924)	「ご ¹⁴ 」副詞の上に冠するもの。これも主に漢語のものにつく。 ご親切 ご丈夫 ご盛ん ごゆっくり ご尤も
その他の文献	・副詞では「お互いに」「ごもっとも」が一例ずつ拾える程度 ¹⁵ 。 ・「もっとも」「ゆっくり」など「ご」が付くなど、例外も多い ¹⁶ 。 ・漢語ではない例は少ないが、「ごゆっくり」などがある ¹⁷ 。

山田(1924)で、副詞の例として挙げられた「ご親切、ご丈夫、ご盛ん」は、

¹² 44語は以下の通り。【お玄関・お座席・お席・お宅・お2階・お給料・お給金・お月謝・お香典・お賽銭・お財布・お札・お時給・お祝儀・お餞別・お代・お駄賃・お通帳・お布施・お数珠・お歳暮・お太鼓・お中元・お急須・お匙・お杓文字・お茶碗・おちょこ・お布巾・お盆・おわん・お化粧・お写真・お人形・お帽子・お洋服・お扇子・お雑巾・お注射・お道具・お時計・お鉢・お布団・お電話】以上が、語種辞書「かたりぐさ」に漢語と分類されているにもかかわらず「お」が付く語彙である。

¹³ 幼児語

¹⁴ 山田孝雄. 1924. P. 24

¹⁵ 田中章夫. 1972. 「オ」のつくことば・「ゴ」のつくことば P. 42

¹⁶ 関根健一. 1997. P. 61

¹⁷ 三浦昭、マクグロイン花岡直美. 1988. P. 81-83

どれも副詞ではないため分析対象から外すべきである。その他の文献を見ても、副詞に「お」や「ご」が付くものについて、調べて分析したものは殆どなかった。そのため、本研究では現代副詞用法辞典を用いて、以下の語彙を収集した。

お	おあいにくさま・おいくつ・おいくら・おひとつ・おまけに・おたがい
ご	ごもつとも・ごゆっくり

このように収集したのを見ると、「お」を冠するものが6語、「ご」を冠するものは2語あった。つまり、「副詞」全てに「お」「ご」が使えるわけではない。「ご」の付く副詞は、接頭辞「ご」を除いた元の語彙が和語である。

3.4.2. 「ご」 + 道具

「道具」に「ご」が付くものは、祭礼・金銭関係の語彙にのみ認められる。「ご祝儀」については、「お祝儀」で使用されることもある¹⁸ため、ゆれていると言える。それ以外の語彙を見てみると主に祭礼に関する語彙にのみ使用されているようである。また、祭礼に関しては、道具であっても漢語が重視され、「ご」がとられているようである。しかし、道具を表す語彙に「ご」がつくことは少なく、「ご」+「和語」で表される道具の語彙は見当たらなかった。

3.5 「お時給」はなぜ「お」か？

最近、使われるようになってきた語に「お時給」というものがある。「時給」という語彙にはこれまで「お」「ご」は付けられなかったが、使用され始めた。この「時給」という語彙は、漢語である¹⁹ため、通常ルールから言えば「ご」が付くはずであり、「お」は例外とされてきた。では、なぜ「お」が付けられ、使用されるようになったのだろうか。今回収集した「お」のつく語彙の金銭に関するものを挙げてみよう。

<p>お銭・お金・お通い帳・お給料・お給金・お月謝・お月謝袋・お香典・ おこづかい・お賽銭・お財布・お札・お通帳・お時給・お祝儀・お餞別・ お代・お包み・お釣り・お手付金・お年玉・お捨り・お布施・お見積もり・ お家賃</p>

「お時給」は、もともと、「お時間」・「お給料」などの語彙から派生したとも考えられる。しかし、「モノ」の中の「金銭」カテゴリに入る語彙であれば、漢語に「お」が付いても「例外」ではない、と言える。「お時間」、「お給料」につられて「お」が使われた可能性もあるが、金銭に関する語彙だから「お」が選択された、とも考えられる。

ただし、この「お時給」という語彙は、メディアに登場したことはあるが、自然談話でどの程度使用されているかについては資料がない為、一般的に使用

¹⁸ 4章で詳しく述べる。

¹⁹ 日本で作られたものであれば、漢語であっても和語と解釈できるが、ここでは「かたぐさ」を使用して「漢語」と判断した。

されているとは言えない。「お時給」の使用については今後の研究課題としたい。

3.6. 結論

「『お』の付くモノ」を分析してきた結果を以下にまとめる。

「モノ」に「お」が付くものが多数ある事や、それぞれが関係しているものもある事が分かった。「モノに『お』がつくのではないか」という仮説を立てていたが、調査により、「お」の付くモノを表す語彙が 113 語²⁰あるという事実や、「ご」の付く和語・「ご」の付くモノに限られている事も判明した。これらの事からも、「モノには『お』が付けられる傾向がある」という事が言えるであろう。

- ・電車、バスなど公共交通機関には「お」は付かない。
ただし、幼児語は「お船」など使用することもある。
- ・外来語には付きにくい。 (例) *おブラシ、*おスプーンなど
- ・これまで例外とされてきた漢語に「お」を付けるのは、例外なのではなく、『モノ』には『お』を付ける」というルールがある。
ただし、祭礼・金銭関係の一部の漢語には基本ルールにより「ご」が付くものもある。
- ・「お」の付くモノについて、そのモノの所有者は、話し手以外であり、聞き手や第三者の所有するものである場合が多い。
食器に関しては、話し手の物であっても使用することができる。
これはつまり、食器には丁寧の「お」が付けられ、それ以外のモノには、聞き手や所有者に対する尊敬の「お」が付けられている、ということである。
- ・金銭に関連する場合、お金そのものだけでなくやりとり（給料など）にも「お」を付ける。

以上の分析結果から、「お電話」に「お」がつくのは電話がモノだからであるという説明をすることができよう。

4. 「お」も「ご」も付けられる語彙

あるレジの所に「ご会計²¹」という看板があり、見た時に違和感があった。このように、「お」も「ご」も付けられる【都合・利息・通知・返事・会計】という語彙が、最近見られる。「お」も「ご」も付けられるという事が何を意味するのだろうか。

²⁰ 本研究で収集した 113 語には幼児語（2 語：お船・お注射）も含むが、独立したカテゴリーではなく、それぞれの元の語彙の所属で分類した。

²¹ 九州自動車道の金立パーキングエリア売店の看板。

4.1. 「お」も「ご」も付けられる語彙に関する先行研究

「お」も「ご」も使用できる語彙について対象とした先行研究はあまりないが、関連しているものとして次のようなものがある。

井上(1999)では「ご／お」の両方が付きうることばもある。「ご返事／お返事」「ご勉強／お勉強」「ご年始／お年始」などである。男が堅苦しい感じで使うと「ご」になり、女の人が日常語でいうと「お」になる例もある。以前は「ご」が付いていた漢語に最近「お」が付きはじめた例もある。「ご入学／お入学」「ご受験／お受験」の類だ。使う場面や意味・ニュアンスに違いがあるようだ。一九九八年に「お葬儀どこでなさいますか」という広告を見た。「ご葬儀／お葬儀」もできたわけだ。²²とあった。

「男が堅苦しい感じで使うと『ご』になり、女の人が日常語でいうと『お』」というように、男女の性差により使用に変化があるかどうか、ここでははっきりしない。また、「お」も「ご」も付けられる語彙について言及しているのは次の先行研究である。

「オ」も「ゴ」もつきうることばというのも、案外少ないようである。(略)かなり無理をして当たってみても、「都合」「利息」を得た程度である。すくなくとも、現代においては、ある語に「オ」がつくか、「ゴ」がつくかは、意外に、はっきりと区別されているとみられる。(略)では、「返事」は「お返事」なのであろうか、それとも「ご返事」なのであろうか。(略)ただ、和語同様になじんだ語には、「お」がつくようになる。さて、「お返事」か「ご返事」かの問題の答えである。すなわち、「返事」の問題はこの中間で揺れていて、結論は実はどちらも正しい答えとしてよいことになる。祝辞・祝儀・年賀・年始・香典・位牌・焼香・返事・大切・誕生・病気²³「ご」だけでなく「お」が付くこともある。(P.310)

この先行研究で挙げられていた、「お」と「ご」、どちらも付けられるとされている語彙に「御」を付加のできるかどうかを考えてみる。

お		○	○	?	○			○		○	
	祝 辞	祝 儀	年 賀	年 始	香 典	位 牌	焼 香	返 事	大 切	誕 生	病 気
ご	○	○		○		○	○	○		○	○

元々「ご」を使用していた、神仏・祭祀などの語彙を「お」と読むようになっていたのだろうか。これらの二つの「御」は、全く同じ働きをするのだろうか。「お」と「ご」2通りあるのには理由があるのではないだろうか。次の節で詳しく見ていく。

²² 井上.1999.「敬語はこわくない」P.52

²³北原保雄.2003.「日本語使い方考え方辞典」

4.2. 「お」と「ご」使い分け

「お」と「ご」どちらも使用されている語について、具体的な例を挙げて見よう。

例：〇〇日までにご返事ください。

〇〇日までにお返事いたします。

これは、返事をする人が異なる。「ご」は話し手以外の尊敬する相手である。それに対して「お」は、話し手が、自分または自分のグループの行為に付けている。この「返事」という語に関しては、従来の用法では区別がされていたと考えられるが、現在は「ご返事」でも「お返事」でも良くなっているようだ。

次に、限られた語彙ではあるが、「お」と「ご」どちらも使用するものがある。「お会計」「ご会計」を例に見よう。

ここで焦点となるのは「会計」の動作主が誰か、ということである。「お会計」は動作主が会計をする人（＝店員）で、「お会計する」となる。「お」は、「する」「いたす」などの語を伴って、自分の側の動作について、動作の及ぶ相手に対する敬意を表す²⁴。

一方、「ご会計」の場合、動作主は「客」で「ご会計なさる」となる。これは人の行為に対する尊敬の意を表す²⁵。しかし「ご」には行為の及ぶ他人を敬って、自分の行為をへりくだってという用法²⁶もある。

表3 動作主と「お会計」「ご会計」

	発話者	動作主	敬意対象	用法	例
お	店員	客	客	動作主に対する敬意	テーブルにてお会計いただけます
	店員	店員	客	動作の及ぶ相手に敬意	お会計いたします
ご	店員	客	客	人の行為に対する尊敬	?ご会計なされた商品ですが…
	店員	店員	客	行為の及ぶ他人を敬う	?ご会計いたします

発話者・動作主ともに店員の場合に、「ご説明いたします」が使用可能なことから、「ご会計いたします」も使用され始めたのではないだろうか。

ここで、「お」は動作の及ぶ相手、「ご」は行為の及ぶ相手であるという違いがあるものの、「会計」は動作も行為も同じ作用であるため「ゆれ」が生じたと

²⁴ 「かばんをお持ちする」「先生をお呼びする」など

²⁵ 「ご帰国なさる」「ご説明くださる」など

²⁶ 「ご案内申しあげる」「ご招待いたします」「ご紹介する」など

考えられる。現在では他にも様々な「お」や「ご」が使用されている。

「御計算書」という語彙がある。この「御計算書」はレシートのことを指すのだが、「計算をする」のは客ではなく、店側のはずであり、客の行為に「御」をつけているのではないため、「ご計算書」とはならない。そう考えると、「お計算書」と読むのであろう。この注文機器がどの程度普及しているのかは不明だが、「お計算書」「ご計算書」という語彙が、口語での使用は確認されていないが、語彙としては存在しているようである²⁷。

実際の使用例を見たが、「お」と「ご」、どちらも使用できる語彙が今後も増加するであろう。

5. おわりに

疑問の出発点であった、学生からの『「ご住所」は分かるがなぜ『お電話』なのか?』という事について、『電話』は漢語だが、【モノ】だから「お」をつける」という答えを導き出した。

「お」と「ご」の使い方については、どちらにも使えるものや幾分使い方に偏りがあるものがあり、「お」も「ご」も使える語彙が存在していると言える。つまり、「お」と「ご」の連続体があり、その典型的な両極を占めず、より真中に近い使用例があると言えよう。

「お」と「ご」について、「[和語には『お』漢語には『ご』を付ける]という基本のルールを逸脱している」と考えられてきた語彙にも、実はルールがあった、という事が本研究で明らかになったと考える。この成果を踏まえ、

基本的に和語には「お」、漢語には「ご」をつける。

モノの語彙の場合は「お」が付けられるが、規則からの逸脱ではない。とすればよいのではないだろうか。

これからは、日本語教育であれ、国語科教育であれ、「なぜ『お電話』は『お』なのか?」という疑問にぶつかった時には、言語学的に証明した、【モノ】に付ける「お」であると説明することができる。

今後の課題

本研究で分析した「お」と「ご」は、歴史的にどのように使われるようになったのかという変遷を見る必要もあるだろう。時期的に使用実態が異なる可能性や、何らかの理由で変化してきたとみることも妥当性があると思われるため、今後の課題としたい。

また、最終的にモノについては「御(お)」をつけると言っても、「どうしてモノに付くのか」が判明していない。これも今後の課題とする。

²⁷ この「御計算書」が口語でどの程度使用されているのかは不明である。実際には「レシート」が使われており、あまり使用されていないと考えられる。

先行研究で挙げられていた「幼児語²⁸」についても、「御（お）」が選択されているようであるが、具体的な調査は行われていない。これらの「幼児語」に関してはまた別の機会に考察したいと考える。

以上のように、「御（お）」と「御（ご）」の統語的特徴を中心に見たが、研究課題が多く、より深く考察するに値する分野であると言えよう。

参照文献

- 関根健一.1997.『笑う敬語術 オトナ社会のことばのしくみ』、61、東京：勁草書房
- 山田孝雄.1924.『敬語法の研究』、24、東京：東京實文館
- 田中章夫.1972.『『オ』のつくことば・『ゴ』のつくことば』、至文堂編集部『現代の敬語とマナー』42、東京：至文堂
- 三浦昭、マクグロイン花岡直美.1988.『語彙』外国人のための日本語例文・問題シリーズ13、81-83、東京：荒竹出版
- 井上史雄.1999.『敬語はこわくない』、52、東京：講談社
- 北原保雄監修.2003.『日本語使い方考え方辞典』、307-310、東京：岩波書店
- 松村明.1999.『大辞林』第二版、東京：三省堂

²⁸ 「お稽古」や「お授業」、「お受験」など